

特集にあたって

女性の下腹部痛，性器出血は，できれば女性診療科の先生がいる施設でお願いしたい，という救急医も多いのではないのでしょうか。一方で，たとえ当該の科の先生がおられても，夜間は出産や重症のかたの対応に忙しく，また，年配の産婦人科医師でも当直しなければならない病院も多く，最初からお願いすることができない場面もあるかと思われます。

女性ならではの疾患の診察はデリケートであるうえに，短時間に急変する大量出血やDICに陥る病態も少なくありません。可及的すみやかに，できる限りの止血を行わなくてはならない場面もあります。また，「妊娠」については，確定してもしなくても，留意しなくてはならないこともあり，さらに，女性特有のメンタリティに気を遣うこともあります。

本特集では，女性診療において救急医がかかわることができる診察，検査，処置，処方上の注意などの知識を整理していただくために，各分野の専門の先生方に執筆をお願いいたしました。また，新研修医制度の変遷で，必ずしも女性診療科の研修期間が十分でなくなった現状における，救急医向けの教育システムも紹介していただきました。読者の皆様の，女性患者さん診察の憂いを軽減できる特集となっていれば幸いです。